

文芸 さくらがわ

俳句

〔天和俳句愛好会〕

長らいて日々の活力植田道 鈴木 ふみい

自転車に初乗りの子に青田風 田中 はつひ

達者と言う二字の晩年終戦日 古橋 益子

明け易し夜明けの読書陽の光 鈴木 登美子

猫の手も借りたい程に麦の秋 皆川 和子

盆用意ははの手順に従へり 鈴木 つぎ

新築の木の香の匂う夕端居 安達 幸子

雨後の日の雫たつぷり濃紫陽花 岩瀬 のぶ子

新しき靴のなじまず青嵐 田代 ティ

畦に立ち青田の風に心地よし 代田 とし

〔二般投稿〕
どの子にも大地ありけり大夏木 木下 善信

短歌

〔花の室 木崎集〕

庭に続く山の一本松に来て天狗はよい子を翼にのせる 塚田 沙玲

子供らの輝く瞳に会いたくて読みの練習ア
エイウエオアオ 大久保 まさ子

山合ひの露天風呂にて満天の星座見上ぐる友の横顔 櫻井 ハル子

はなだ色の空に流るる雲を射て避雷針の矢はにはたづみに見ゆ 塩谷 明子

遠雷の音の響きもこころよし茄子もきうりも雨待つすがた 鈴木 とみ

蜜蜂の群れて漂う白鷺草盛り過ぎつつ気高く香る 塚本 幸子

白き歯がのぞき始めた児の口に「ふーふー」して玉子がゆはこぶ 西岡 和子

軒下に商ふ塗り箸彩に魅せらるる客の一人と化しぬ 野村 幸男

亡き夫の三回忌過ぐ吾が止めし時計の針をリセットせねば 深谷 快子

〔岩瀬短歌会〕
吾が庭につつじやふじの花盛り時折り燕の過りゆく声 山田 しげの

「かわいいね」の声連なりたり一群の稚児百合の小さき白い花咲く 古賀 澄

震災で新たためて気付くこの絆日本は勿論世界の人と 飯田 良江

保育器に生死さ迷ひし初孫よ四肢伸びやかに二十となりぬ 岡野 禮子

やはらかき柳芽おほふあは雪をゆらして落とす群立つすずめ 泉 三郎

かさこそと浅蜷の砂吐く声を聴き罪悪感抱く朝がはじまる 三井 弥生

ニセアカシアの花房白々咲く度に母の介護の日々顧くる 広沢 日出子

えんどう豆莢のふくらみ食べごろに小ざるいっばいうきうきと摘む 片岡 喜知子

終日を雨に濡れつつ田植せし遙かなる日を今なつかしむ 鈴木 美津子

〔岩瀬短歌会〕
耕作を放置しようかこの畑今日も思案の心は重く 安達 すみ子

新緑の筑波に集ふきやうだい会ともに高齢労り合つて 安達 悦子

四照花の咲く庭に出づれば逝きし息子の優しき姿みる縁とも 大関 節子

小笠原世界遺産と聞きし朝思ひ出恋し青き海山 角田 玉枝

追憶は会社と疎開せし戦時中合歓の大樹の花盛りせし頃 坪井 ゆき子

梅雨空に山法師の花満開に退院間近な夫に見せたし 長谷川 玲子

紫に白にあやめ咲く中びよんぴよんと曾孫三歳見え隠れつゝ 石川 喜代

■お詫びと訂正

前月号の中に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

〔茂山俳句会〕

誤 買ひ過ぎしこと悔やみつゝ汁の帰路 田崎 信子

正 買ひ過ぎしこと悔やみつゝ汗の帰路 田崎 信子

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111・75-3111、内線1268

広報 さくらがわ

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111・75-3111、内線1268

広報 さくらがわ